



# Special Interview

島根県知事

# 溝口 善兵衛

Zenbee Mizoguchi

# 「神々の国しまね」へようこそ



東の伊勢神宮、西の出雲大社。日本を代表する二つの神社が、六十年ぶりに同じ年に遷宮を迎えることになり、脚光を浴びています。秋の伊勢神宮に先駆け、出雲大社では五月十日に遷宮のクライマックス「本殿遷座祭」を執り行いましたが、関連の奉祝行事は秋まで続き、出雲の地は奉祝ムード一色に沸き立っています。この「神々の国しまね」を率いるのが、二期目を迎えた溝口善兵衛・島根県知事です。出雲大社という大きな観光資源を有する島根県の知事に、その魅力と活かし方についてお話を伺ってきました。

した多彩な奉祝行事が出雲大社や周辺地域で秋まで計画されています。この機会にぜひ、より多くの人々に島根県に来ていただけたらという願っております。

**神々のエネルギーにより、日本もよみがえる！**  
●昨年の「古事記編纂千三百年」に引き続き、今年は六十年ぶりに出雲大社の「大遷宮」という歴史的な節目を島根県では迎えています。島根県にとって、今回の大遷宮はどのような意義があるのでしょうか？

ほうは発展がやや遅れてしまいました。しかしながら、最近の動きとして、日本も一つの曲がり角に来ており、地方のよさというものが見直されるようになってきたと感じています。

観光スポット周辺の旅館やホテル、飲食、お土産といった産業の裾野が広がり、いろいろな需要が行き渡っていくことで経済が活性化するということなんです。

遷宮とは、神社本殿の造営や修造のための「宮遷し」の神事です。六十年という歳月の中で古びた本殿の大屋根の檜皮を取り替えたり、傷んだ部分を修造することによって、御殿が清らかに一新されます。それによって、神々のご威光が人々にも伝わってきます。そういう意味で、日本自身もよみがえらなければいけませんし、経済もまた再生させなければいけません。そうした時期に、タイミングよく大遷宮が行われるというふうにご考慮しております。

溝口 島根県はご承知のように、少子高齢化が進んでいます。戦後の高度経済成長下にあつて、太平洋側の大都市部が発展するに連れ、そこへ人口が流出し、雇用の場がそこで拡大する反面、残る島根の

島根の資源の中で、観光資源は、歴史があり、文化がありますから、我々の言わば宝物みたいなものです。それを活用し、多くの人々に島根に来ていただくことによって、

観光資源の象徴が、出雲大社です。古い時代から連続と続く歴史と文化の中心にある神社です。その出雲大社の六十年ぶりの大遷宮ですから、地元活性化の絶好の機会と捉えております。

ハイライトは五月十日に催された「本殿遷座祭」ですが、それ以降も、遷座に関するさまざまな祭事が執り行われるほか、伝統芸能やコンサートなど、大遷宮を記念

県民の皆さんも、これを機に、

# 溝口 善兵衛 みぞぐち・ぜんべえプロフィール

昭和 21 年 1 月 20 日 生まれ 島根県益田市出身  
 昭和 39 年 3 月 島根県立益田高等学校卒業  
 昭和 43 年 3 月 東京大学経済学部卒業  
 昭和 43 年 4 月 大蔵省入省  
 平成 8 年 7 月 大蔵省主計局次長  
 平成 9 年 7 月 大蔵省大臣官房総務審議官  
 平成 10 年 5 月 大蔵省大臣官房長  
 平成 11 年 7 月 大蔵省国際局長  
 平成 15 年 1 月 財務省財務官  
 平成 16 年 7 月 財団法人国際金融情報センター理事長  
 平成 19 年 4 月 島根県知事 (2 期目)  
 [趣味] 自然の中でのウォーキング、社寺・遺跡めぐり、美術鑑賞、囲碁  
 [座右の銘] 着眼大局、着手小局



## よりよいおもてなしのためにガイドブックを

●今、おもてなしという言葉が  
 ありましたが、その心が何か具  
 体的な形となって現れてくるもの  
 あるのでしょうか？

溝口 一つには、出雲大社の門  
 前町、大社町では、参道の神門通  
 りの装いを新たにしました。観光  
 客をお迎えするにあたって、町の  
 雰囲気をよくするために、統一の  
 とれた暖簾を各店にしつらえたり、  
 通りに花を飾ったり、照明を変え  
 たりして、通り全体をよみがえら

せました。自分のお家の玄関をき  
 れいにして、おもてなしをするよ  
 うなものです。

もう一つは、ガイドブックをつ  
 くったことです。旅館やホテルの  
 職員の方や、タクシートの運転手さ  
 んをはじめ、地元の人たちがお客  
 様から質問を受けたときに答えら  
 れるよう、勉強してもらおうと、  
 この『神々の国しまねガイドブッ  
 ク』三冊をつくったんです。

神話の世界も複雑で、神様もた  
 くさんおられますからね。あそこ  
 の神社はどの神様がお祀りしてあ  
 るとか、どういう物語であるとか  
 を簡単にわかるようにまとめたの  
 が神話編です。あとは万葉編と隠  
 岐ジオパーク編があります。

## 出雲大社は縁結びの神様です

●私事ながら、小さい頃に習っ  
 た神話で記憶に残っているものと  
 言えば、**大国主命が登場する「因幡の白兔」**くらいですが…。

溝口 出雲大社はその**大国主命**  
 を祀つてあるわけです。

古代の神話の世界では、**大国主命は須佐之男命の子孫**です。須佐之男命は天上界の天照大神の弟になります。須佐之男命や天照大神



県民上げてのおもてなしを徹底するために、県と民間で共同で立ち上げた実行委員会が作成したガイドブック3冊。向かって左から、隠岐ジオパーク編、万葉編、神話編。



は、伊邪那岐、伊邪那美の子どもたちなんです。

須佐之男命が乱暴をするので、天上界を流放され、降り立ったところが、地上界の出雲の地でした。そこで八岐大蛇を退治して、助けられた姫様と結婚します。その子孫に**大国主命**がいました。

出雲地域は大陸に近いですから、稲作や鉄器、青銅器などが伝わってきて、高い文化がありました。神話では、**大国主命はこの地域を豊かな国にする**わけです。この国を「葦原の中つ国」と言います。



出雲大社御本殿 (大屋根)

地上界で葦や稲などが生える立派な国だということです。

天上界にいる天照大神が地上界の繁栄ぶりを見て、地上界を譲つてくれと**大国主命**に言うわけです。それから若干の経緯はありますが、**大国主命は戦いは避けたい**、平和裡に解決したいということでお譲りしましょうということになるんですね。しかし、その代わりに、天上界にも届くような大きな社を造つてくれと申し出て、そうしてできたのが**出雲大社**なんです。

この出雲大社の特色は、縁結びに御利益があることです。旧暦十月の異名は**神無月**ですが、それは神々がなくなる地域での話でして、それに対して**出雲大社**は全国の神々が集まる**神在月**で、神様たちが縁結びの相談をされるということになっていきます。それで、出雲大社は**縁結びの神様**と言われるわけです。

## 「雲太、和二、京三」出雲大社が一番高かった

●タクシートの運転手さんの話では、東京からわざわざ寝台車に乗って出雲大社にやってくる若い女の子たちが増えているそうですね。溝口 ええ、寝台特急「サンラ

イズ出雲」で金曜日の夜に東京を発つて出雲に来て、出雲大社にお詣りした後、玉造温泉に泊まって帰るといふコースが人気のようです。今の日本の社会を見てみると、若い女性たちがいろいろな流行や文化をリードしていますね。たいへんありがたいブームだと思います。昨年開催した「神話博しまね」あたりから、このブームがだんだん広がってきたようですよ。

この神話博は、出雲大社に隣接する古代出雲歴史博物館前を特設会場に四ヵ月間近く開催したのですが、おかげさまで島根県の人口七十一万人を上回る約七十三万人の方に会場いただきました。

この博物館には、銅剣や銅矛、銅鐸など、古代出雲の青銅器文化を示す貴重な国宝のほか、古代出雲大社本殿の十分の一の復元模型等が常設展示されていますので、必見の価値があると思います。

平安時代の教養の書に『口遊』という物語を暗誦する歌があつて、その中に「雲太、和二、京三」という有名なくだりがあります。

これは建物の高さを示しているもので、雲は出雲で太は太郎、即ち出雲大社の本殿が一番高いと語って暗誦していたのです。

# 溝口 善兵衛



当時の本殿の高さは現在の倍で十六丈。一丈は三メートルですから、四十八メートルほどあったことになりました。

その次が和二で、和二の和は大和、即ち奈良の大仏殿を表し、四十五メートルくらい。京三は京都の大極殿だそうです。

このような高層神殿の模型や、境内の遺跡から発掘された本殿の巨大柱など、出雲大社の歴史をさまざまな角度から紹介する貴重な資料を全国の人に知ってもらおうと、去年の夏に京都国立博物館で展示会を催し、秋には東京国立博物館でも展示会を催したところ、大勢の人が来られました。

出雲大社にお詣りに来られた際には、東隣のこの博物館にもぜひお立ち寄りいただきたいですね。

●昨今は、若い女性の間で、こういう歴史をファッションにまで変えていってしまう傾向がありますが、それはそれでいいのかなと思いますね。

溝口 神話のような古い世界について、最近では日本人の関心も広がって来ているように思います。日本が、ある程度、成熟した国になって、自然や歴史、文化に関心を持つ、あるいは日本の来し方を

どうだったかという関心が高まっていることがありますよ。それが証拠に、出版物でも、古代世界に関する書籍がものすごい勢いで出ておりますね。

## 豊かな日本をつくるには「地方分散」が必要

●出雲大社、伊勢神宮という日本を代表する神社が、奇しくも同じ年に遷宮を迎えたことで、いつになく地方に全国から注目が集まっています。知事はこの地方をキーワードにした「地方分散」を議論として展開されていますが、これはどういう狙いがあるのでしょうか？

溝口 戦後の復興・発展の中で、重厚長大の産業ができて、大都市に多くの人が集まりました。その過程で、地方では若い人が少なくなり、大きな格差ができました。しかし、日本全体が新興国の追い上げを受け、今では大企業も製造業も国外に出て行くという難しい時代を迎えています。

そうした状況の下で、地方ではビジネスが展開しにくいと思われるようになりましたが、道路網も少しずつ整備され、大都市と地方都市との行き来も便利になってきました。

もっと大きいのは、ITの急速な発達により、情報のネットワーク化が進み、地方にいても情報を瞬時にやりとりすることが可能になりましたから、地方でも充分ビジネスは成り立つ環境が整いました。それから三点目には、経済の成熟化があります。社会の成熟化が進み、安全・安心な食材が大事、きれいな水が大事といったように、自然に対する価値観が変わってきました。

少し前までは、欧米のブランド品が若い人の関心事でしたが、今はそれが日常的、一般的なものになってきて、むしろ地方にあるような自然なもの、歴史や文化を持っているものが価値があるというふうに変わってきているんですね。従って、大都市の過密化が進む中で、地方が相対的に便利になり、価値が見直されてきています。ですから、それをもう少し進めれば、日本全体が豊かになるはずですが、そのためには、分権も大事なことです。分権をやるということがもっと大事なことだと思います。

鳥根には森林があり、豊かな海があり、きれいな河川があります。豊かな食材もあれば、歴史も文化もあります。鳥根と似たようなと

るためにも必要です。学校教育、医療、社会福祉といった基礎的な公的サービスと同じように、日本のどこに住んでいても似たようなサービスが受けられるということが、国としての責務だと私は考えています。

## 不味公ゆかりの出雲は抹茶が盛んなお国柄

●趣向を変えて、少しプライベートな質問をさせていただきます。知事はウォーキングがご趣味だそうですか？

溝口 休日などに時間があれば散歩をしたり、自転車に乗っています。これは大分前から、家内と一緒にやっています。家内が付き合ってくれるわけです。この辺ですと、散歩する場所はいくらでもあります。私は車に乗りませんから、プライベートではバスに乗って出かけて、そこで散歩するんです。美保関や日御碕灯台あたりまで少し足を伸ばせば、豊かな自然がありますし、松江の南には古い時代の遺跡などもずいぶんあって、散歩をしていて楽しいですね。

●出雲は大名茶人・松平不味公ゆかりの地で、お茶が昔から盛んなお国柄ですが、お茶のほうはいかがですか？

溝口 おいしい緑茶がありますし、抹茶も非常に盛んですね。仕事柄、いろいろな会合がありますでしょう。そうしたときに待合室で控えているときでも抹茶が出てくるのが非常に多いですね。

●農家の方が田んぼや畑仕事の合間に、携帯用の茶道具を使ってその場でお抹茶を点てて飲まれるとか…。

溝口 そういうのもありますし、一般の家庭でも夕食の後に家族揃



ころはたくさんあるわけですから、そういうところを活用するような国策をとることが、豊かな日本を築くのに必要なということを主張してきているんです。

それで、福井県の西川知事を始め、十三県の知事と一緒に「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」を立ち上げ、地方を大事にする施策をとっていきましょうという活動をしています。

## 松江自動車道の開通で山陰と山陽間が短縮

●「地方分散」のためには道路のインフラ整備が大事だと知事はおっしゃっていますが、この三月末に松江自動車道が開通しました。

溝口 広島県の尾道と鳥根県の松江を結ぶ中国横断自動車道の工事が進行中ですが、松江から広島県の三次市まで高速でつながりました。これで中国自動車道につながりましたから、広島、四国、九

つてお抹茶をいただくという習慣は日常的にあるようです。その意味では、生活文化としては高いと思います。

毎年秋、十月の初めには「松江城大茶会」が開催されるんです。

これは日本三大茶会の一つとして、十流派くらいが一堂に会して茶席を設けます。裏、表、武者小路の三千家から、細川忠興公の流れを汲む三斎流、不味公の流れを汲む不味流など、抹茶だけでも六流派のお茶席がしつらえられるんです。

これは地元新聞社が主催する秋恒例の大茶会ですが、毎年、本当に大勢の人が来られます。女性も和服を召して来られる方が多いです。華やいだ雰囲気があります。このにぎわいぶりを見ると、松江だけに限らず、茶道文化が県下一帯に広がっていることを実感しますね。

私もこの大茶会には招待を受けて行くんですが、いくつか回らなければいけませんので、たいへんです(笑)。

●いろいろと楽しいお話をお聞かせいただきました。ありがとうございます。

溝口 こちらこそ、ありがとうございました。

# いざ、ご縁旅に!



願い石



叶い石

## 玉作湯神社

『出雲国風土記』に記されている歴史ある古社、玉作湯(たまつくりゆ)神社。境内には、触れて祈れば願いを叶えてくれると言われ、古くから崇められてきた丸い「願い石」がある。これに社務所ですでに「叶い石」(有料)を触れさせて祈ると願いが叶うと言われ、女性に人気のパワースポットになっている(松江市)



## 日御碕灯台

島根半島最西端の断崖に立つ(出雲市)

## 日御碕神社



日本の夜を守ると言われている神社。徳川家光の命で造営された鮮やかな朱塗りの社殿は重文。厄除けや縁結びに御利益が(出雲市)

## 美保神社

出雲大社と共に参拝する「両詣り」が縁起がいいとされる。境内の丸い石を触ると子宝に(松江市)



## 稲佐の浜

出雲大社の西にある海岸で「国譲り神話」「国引き神話」に登場する、夕陽スポットとしても人気の海岸(出雲市)



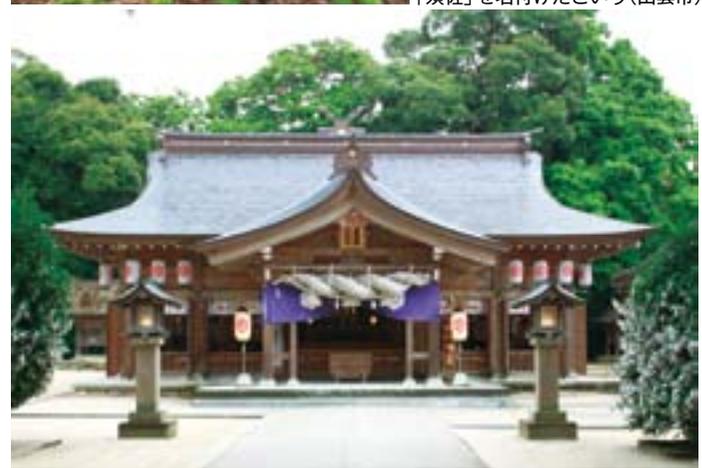
## 宍道湖の夕陽

日本夕陽百選にも選定されている\*水の都、松江のシンボル(松江市)



## 須佐神社

日本屈指のパワースポットの呼び声が高い神社。須佐之男命がこの土地を気に入り、自分の名である「須佐」を名付けたという(出雲市)



## 八重垣神社

出雲大社と並ぶ人気の縁結びスポット。鏡の池占いは特に有名で、水面に浮かべた半紙の沈む早さや、半紙が移動する距離などで縁談を占う(松江市)

## 出雲大社

日本を代表する縁結びの神様、出雲大社。良縁祈願、恋愛成就を求めて、一年中多くの人がお詣りに訪れている(出雲市)

## 須我神社

夫婦円満、児授かり、除災、招福、出産の守護を授かると言われている(雲南市)

## 夫婦岩



## 日本屈指のパワースポットが目白押し

縁結びの神様として有名な出雲大社。その出雲大社と並ぶ縁結びスポットとして最近、若い女性たちの人気を集めているのが、八重垣神社です。

「須佐之男命が八岐大蛇を退治して助けた姫様をもらって二人で一緒に住んだのが、この神社です。ここに「恋占い」にやってくる若い人が増えているんですよ」

溝口知事が紹介してくださった八重垣神社の境内には、大蛇から姫様を隠したと伝えられる森が残っており、そこには姫様が鏡代わりに使ったとされる池があつて、ここで行う「鏡の池占い」が人気なのだとか。硬貨を乗せた半紙を池に浮かべ、それが早く沈むかどうかで、良縁の訪れが早いかどうかを占うのだそうです。

須佐之男命ゆかりの神社は、ほかにあり、その終焉の地とされるのが、須佐神社です。境内には樹齢千三百年と言われる大杉があり、神秘的な霊力を漂わせています。テレビや雑誌で日本一のパワースポットとして注目され、多くの参拝者が訪れています。

## ご縁巡りの旅なら 縁結びの聖地・島根へ

六十年ぶりの大遷宮ということと、とかく県東部の出雲地域に情報偏りがちですが、県西部にも見どころは多いと言う溝口知事。

「石見地域には、世界遺産の石見銀山があり、落ち着いた雰囲気、霧の観光地として知られるようになっています。また、石見は柿本人麻呂とゆかりが深く、万葉の世界にふれられる場所があるほか、神話の世界を伝える「石見神楽」もたくさん残っています」

出雲も石見も神話の世界が色濃く残る、まさに「神々の国」と呼ぶにふさわしい島根県です。神々からの贈り物は、こうした歴史や文化だけでなく、グルメにまで及んでいます。日本海に面した立地から、冬の松葉ガニを始め、豊かな海の幸に恵まれています。野の幸に目を転じれば、お茶を始め、ブドウやメロンなどの果樹栽培も盛んで、畜産では「しまね和牛」が定評のあるところ。

そんな味巡りの旅とともに、ご縁巡りの旅に出たいと切実に願われている方、縁結びの聖地・島根へぜひお越しください。